

平成20年度

コミュニティバス等（町内循環バス等）導入に関するアンケート調査

調査結果

平成21年1月

七飯町地域公共交通活性化協議会事務局

●調査の目的

コミュニティバス等「以下CBと呼ぶ」導入に関する検討を進めるにあたり、七飯町民のCB導入に関するニーズを探るため、昨年の調査内容を踏まえつつ、以下に示す項目について調査を行った。

●調査の概略

【H19調査】→調査目的:移動に伴う交通手段の現状把握

【H20調査】→調査目的:現状交通における満足度とCB導入に対するニーズ調査

- ①回答者の基礎的情報(住まい・年代・性別・職業・自由に使える交通手段)
- ②現在利用している交通手段とその満足度
- ③CB導入に関する賛否とその理由
- ④CB導入に望ましいと思われる路線概略計画の選択
- ⑤CB導入に伴う金銭的な支援策と負担額

●調査結果から把握できること

- ①現行の公共交通利用に対する満足度合い
- ②CB導入に対する賛成度合い
- ③金銭的支援に対する賛同の度合い
- ④その他 路線概略計画に関わる町民の要求傾向

●調査の方法と回収結果

- ①調査対象:七飯町民(20歳以上の成人)
- ②調査時期:平成20年10月下旬から平成20年12月中旬(説明会・配布・回収日含む)
- ③調査方法:標本調査
- ④配布方法:町内会の協力による抽出(世帯単位)と訪問配布
- ⑤必要サンプル数:1,500通
- ⑥回収サンプル数:1,938通(配布数:2,125通,回収率91.2%)

●集計方法

- ①全体集計
- ②地区別集計(大川・大中山地区,本町地区,藤城・峠下地区,大沼地区)

■回答者の属性(全体)

●年層

～20代	1%
30～40代	19%
50～60代	43%
70～80代	36%

※少数第1位四捨五入

●男女比

男	女
48%	51%

※少数第1位四捨五入

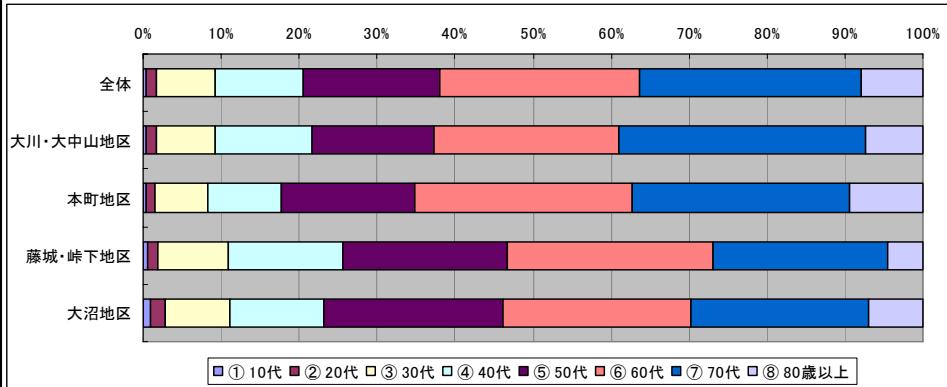
●職業

無職	42%
専業主婦	19%
会社員・公務員・団体職員	13%
パート・アルバイト	10%
自営業	6%
有職の主婦	4%
農林漁業	3%
派遣・契約社員	1%
学生	0%
その他	1%

※少数第1位四捨五入

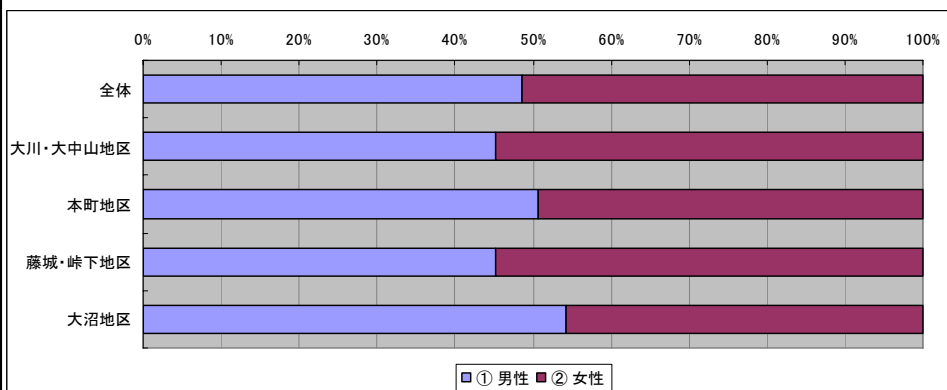
### ■年齢構成比

- 50代以上の方が約8割を占めた。
- 若年世代(20代、30代、40代)は、2割程度であった。



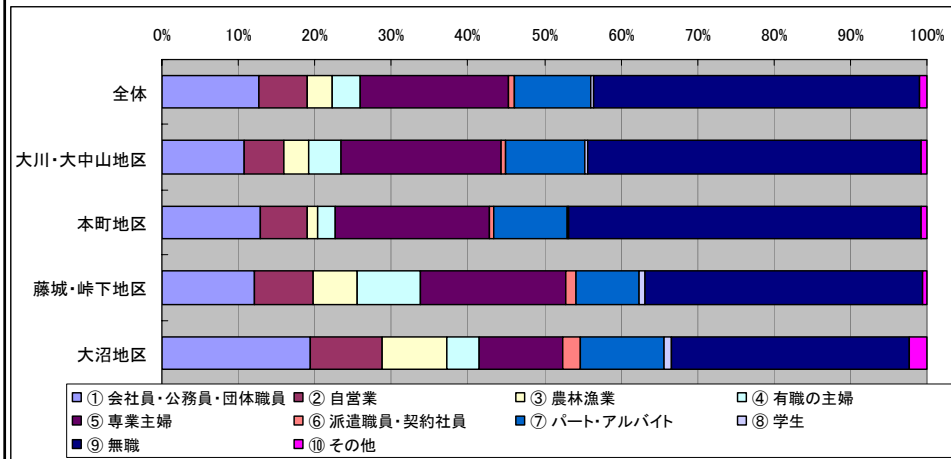
### ■男女比

- ほぼ半々であった。



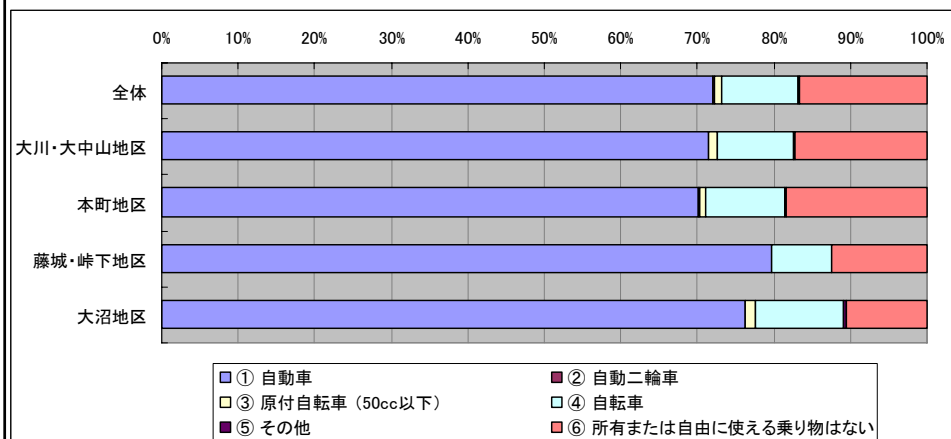
### ■職業比

- 無職が約4割で最も多く、次いで専業主婦が約2割、会社員(公務員・団体職員含む)とパート・アルバイトがそれぞれ約1割であった。



### ■個人が自由に使える乗り物について

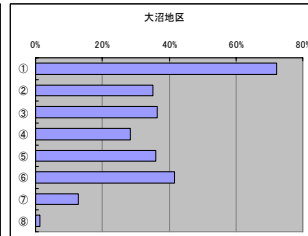
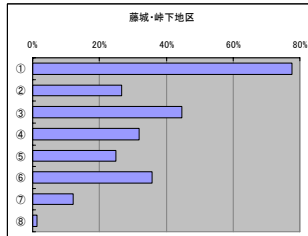
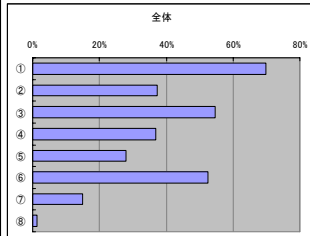
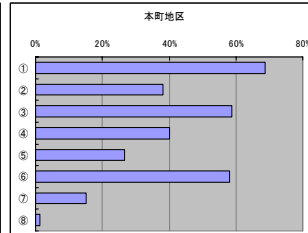
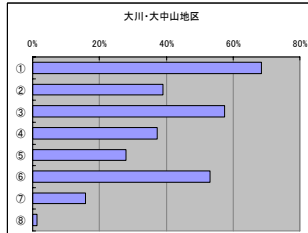
- 自動車を自由に使える方が7割強で非常に高い。
- 自由に使える乗り物を持たない方が2割弱いる。
- 藤城・峠下地区と大沼地区の自動車保有は他の地区よりやや高め。



### ■ 日常生活で利用している交通手段(複数回答)

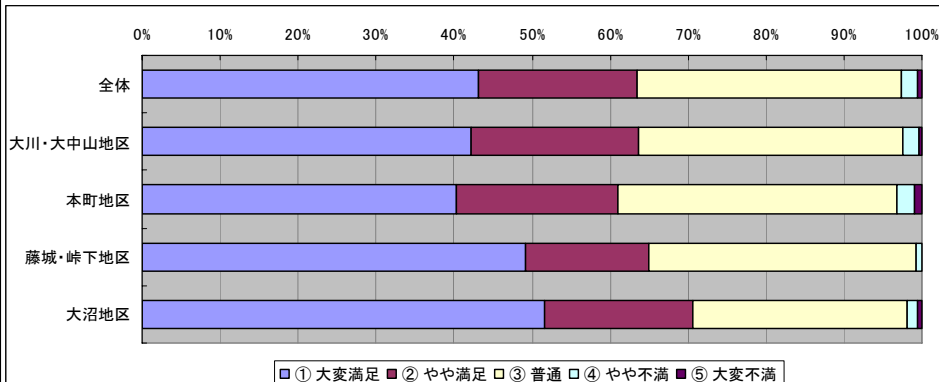
- どの地区も自動車利用が約7割となっている。
- 大川・大中山地区と本町地区は、公共交通+徒歩の組み合わせによる利用が他の地区より高いと思われる。
- 藤城・峠下地区と大沼地区は、他の地区より公共交通利用者が少ない。

①	自動車(ご自身で運転している) ※自動二輪や原付自転車含む
②	自動車による送迎(家族や知人が運転)
③	公共交通(JRや函館バス)
④	タクシー
⑤	自転車
⑥	徒歩
⑦	その他
⑧	移動することがほとんどない



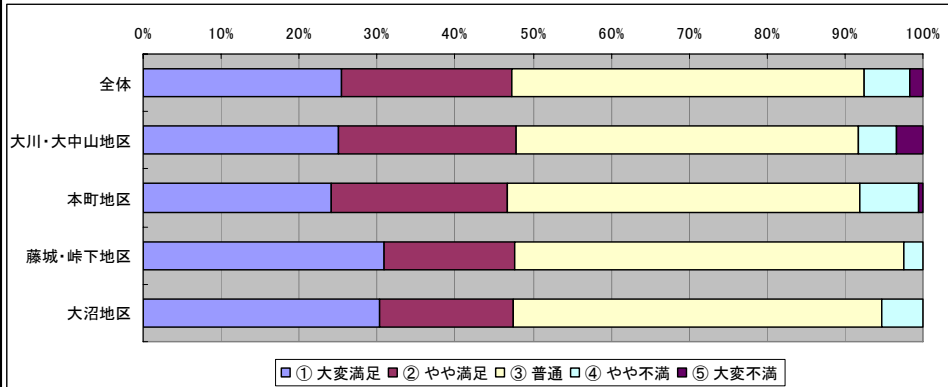
### ■ 自動車(自分で運転)利用者の満足度

- 不満を持っている方は少なく、満足度合いが非常に高い(利便性が高い)



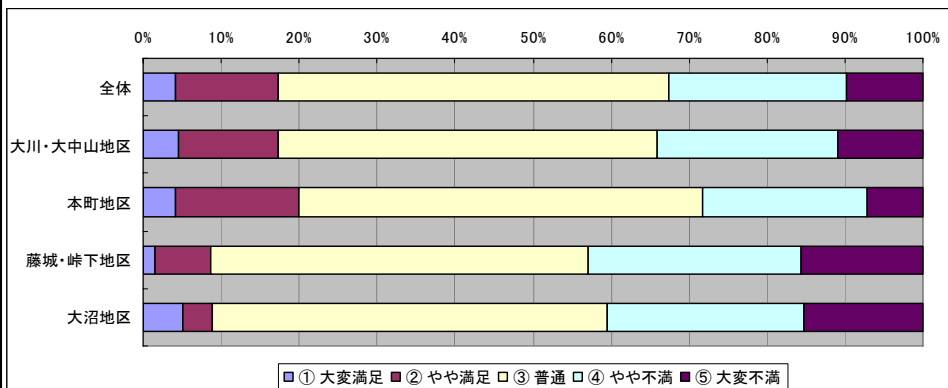
■自動車による送迎(家族や知人が運転)を受けている方の満足度

- ・ 不満を持っている方は1割に満たない。(利便性が高い)



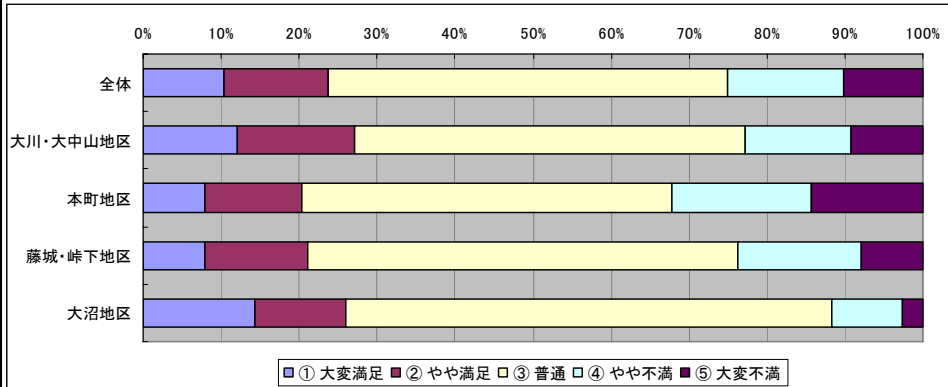
■公共交通 (JRや函館バス) 利用者の満足度

- ・ 不満を持っている人が3割強となっている。(利便性がやや低い)
- ・ 藤城・峠下地区と大沼地区の不満足度合いが他の地区より高い。



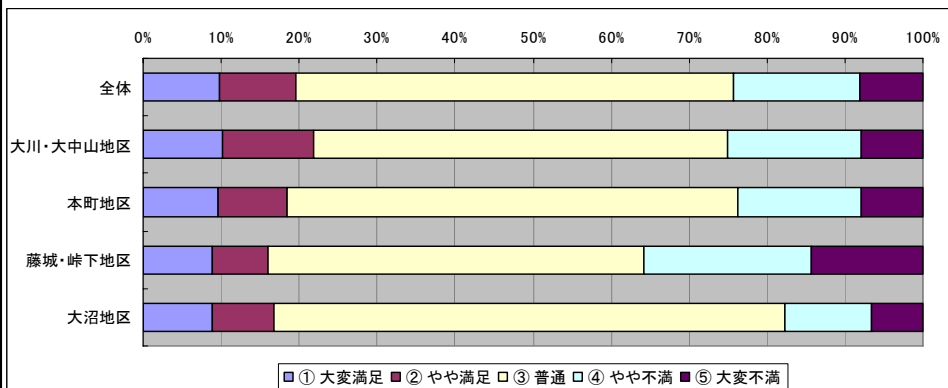
### ■自転車利用者の満足度

- 不満を持っている人が3割弱となっている。(利便性がやや低い)
- 大沼地区の不満足合いが他の地区より低い。  
(地区内を移動する乗り物としては不便がないのでは)



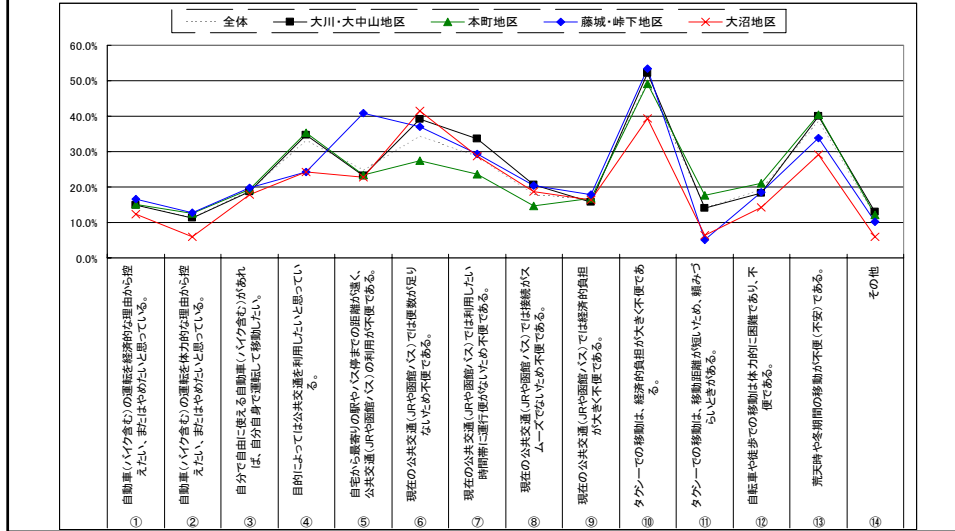
### ■徒歩移動者の満足度

- 不満を持っている人が3割弱となっている。
- 藤城・峠下地区の不満足合いが他の地区より高い。  
(公共交通を利用する際の徒歩移動に不満を感じていると思われる。)



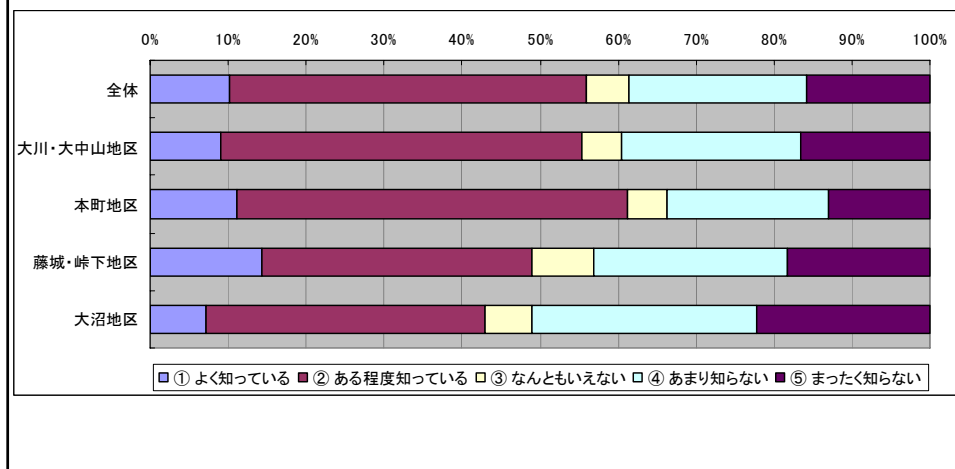
### ■現在利用している交通手段に対する意識について(複数回答)

- ・ 大川・大中山地区、本町地区は、目的に応じて公共交通を使いたい方が多い。
- ・ 本町地区は、公共交通の不便さをあまり感じていない。
- ・ 藤城・峠下地区は、駅やバス停までの距離を遠く感じている。
- ・ 大沼地区は、公共交通の便数不足を感じている。
- ・ 全体としてタクシー利用は経済的に負担と感じている。



### ■コミュニティバスの認知度

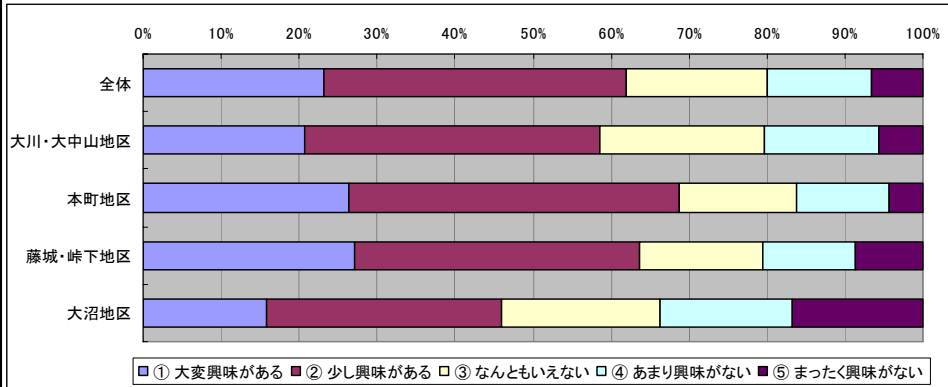
- ・ 半数以上が、ある程度知識を持っている。
- ・ しかし、知識のない方も半数近くいる。





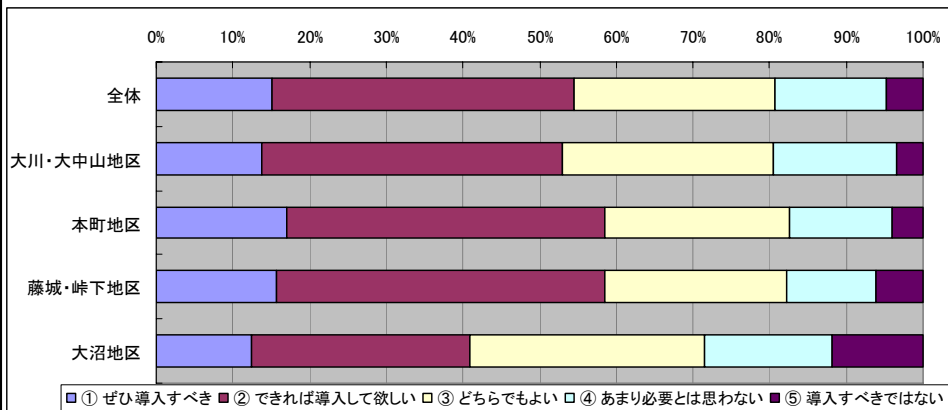
■コミュニティバスへの興味・関心について

- 6割強の方が関心を示している。
- 大沼地区は、他の地区と比較して興味・関心が低い。



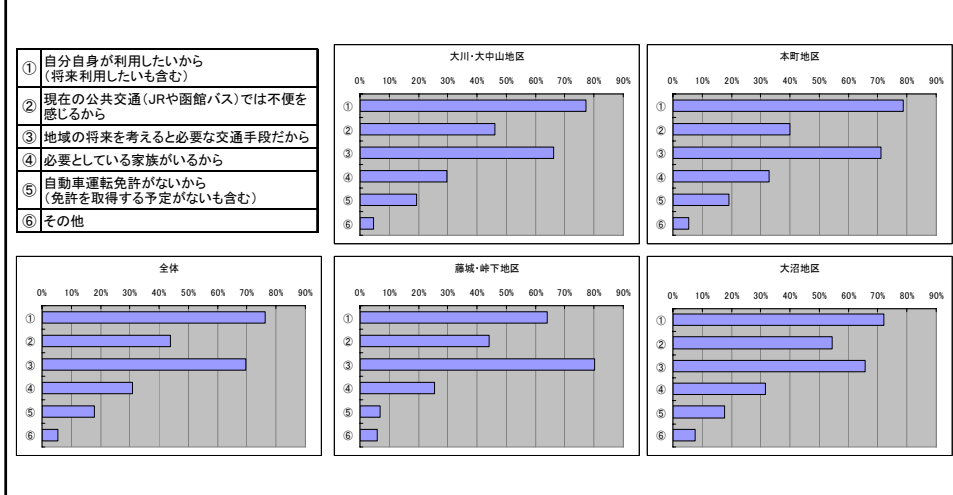
■コミュニティバスの導入に関する賛否について

- 賛成派が5割強、反対派は、2割弱である。
- どちらでもよいが3割弱存在する。(必要性を強く感じていない層では)
- 大沼地区の賛成派は他の地区より少ない。



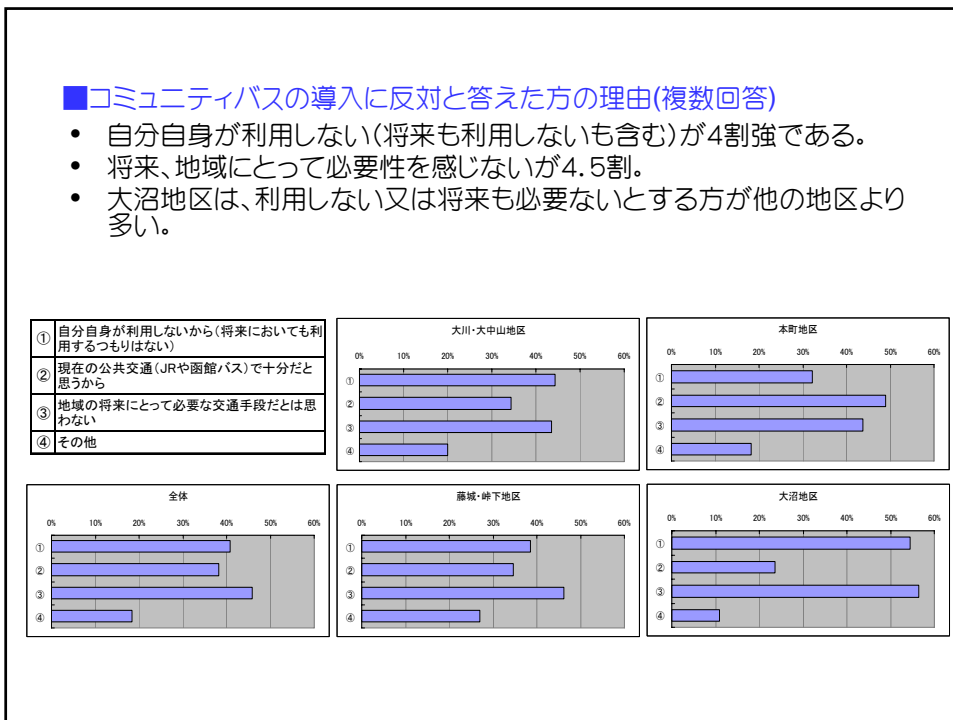
■コミュニティバスの導入に賛成と答えた方の理由(複数回答)

- ・ 自分自身が利用したい(将来利用したいも含む)が7割強である。
- ・ 将来、地域にとって必要と思っている方が約7割である。



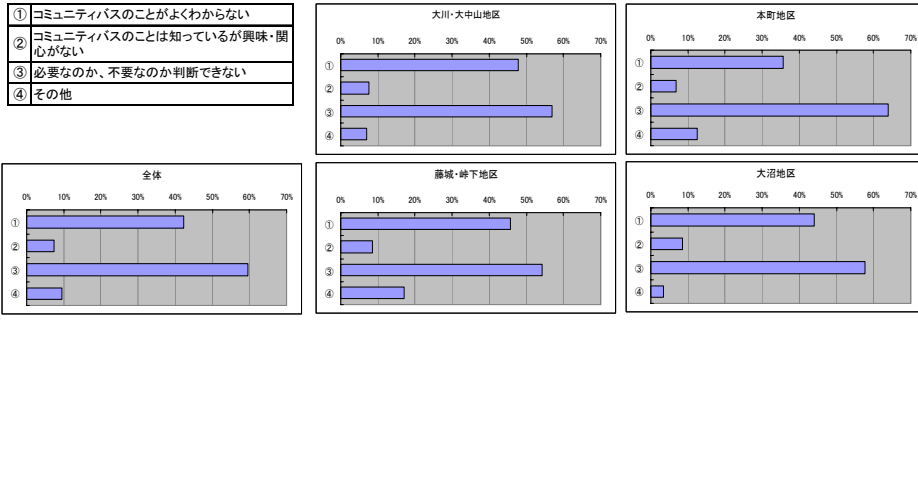
■コミュニティバスの導入に反対と答えた方の理由(複数回答)

- ・ 自分自身が利用しない(将来も利用しないも含む)が4割強である。
- ・ 将来、地域にとって必要性を感じないが4.5割。
- ・ 大沼地区は、利用しない又は将来も必要ないとする方が他の地区より多い。



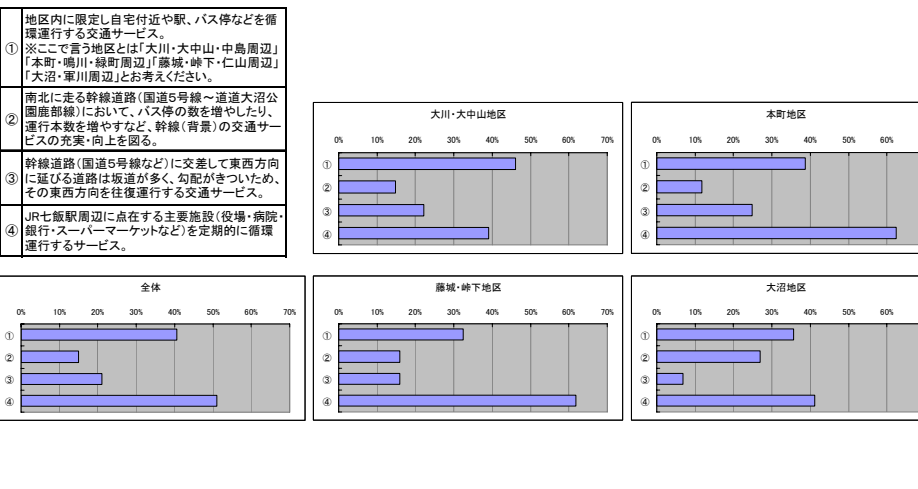
■どちらでもよいと答えた方の理由(複数回答)

- コミュニティバスのことがよくわからないが4割強。
- 必要なのか判断できないが約6割。



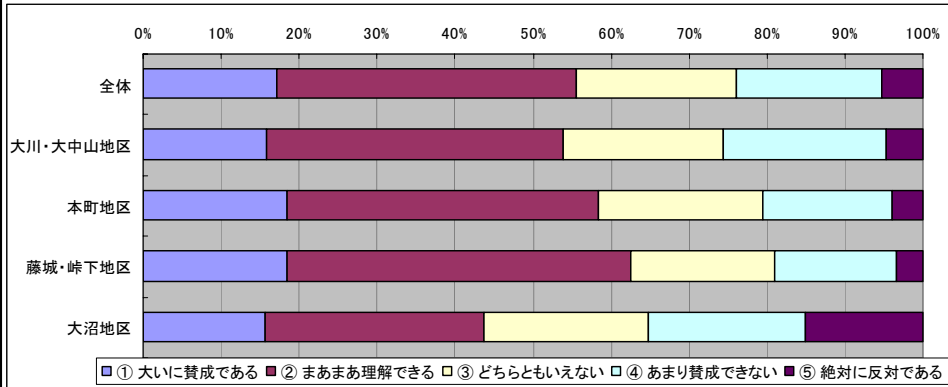
■どのようなサービスの提供を望むか(複数回答)

- JR七飯駅周辺の循環バスへのニーズが5割強で最も高く、次いで地区内の循環バスへのニーズが4割強となっている。
- 大沼地区は、幹線道路の充実・向上へのニーズが他の地区より高い。



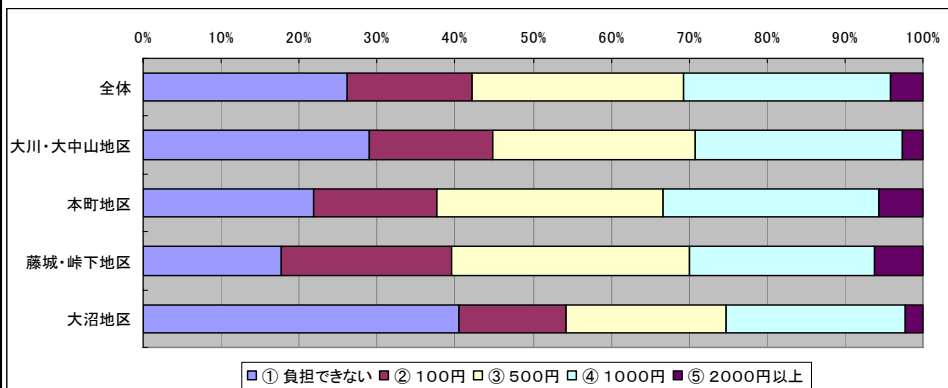
■費用負担について～補助金(税金)を捻出する～

- 賛成派が5.5割である。
- 大沼地区は、反対派が他の地区より多い。



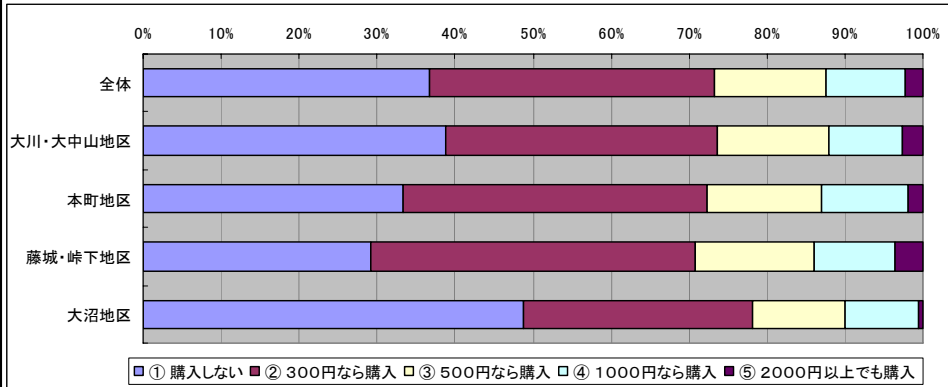
■費用負担について～目的税を徴収する～

- 負担できない方が2.5割である。
- 年間500円、1000円なら負担してもよいがあわせて約5割である。
- 大沼地区は、負担できない方が約4割と他の地区より多い。



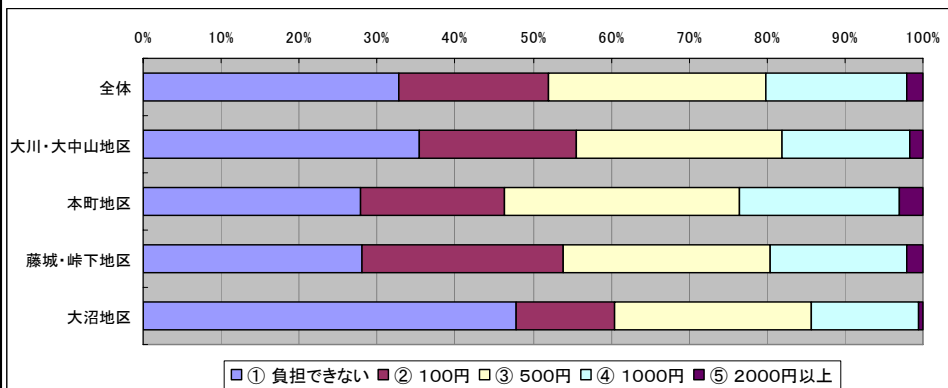
■費用負担について～寄付金付記念切符の購入～

- 購入できない方が4割弱である。
- 300円なら購入してもよいが4割弱である。
- 大沼地区は、購入できない方5割弱と他の地区より多い。



■費用負担について～町内会費として徴収～

- 負担できない方が3割強である。
- 年間500円、1000円なら負担してもよいがあわせて5.5割である。
- 大沼地区は、負担できない方が5割弱と他の地区より多い。



平成20年度  
コミュニティバス等（町内循環バス等）導入に関するアンケート調査 クロス集計結果

《コミュニティバスの導入効果を持続させるための地域ニーズの分析》

平成21年1月

七飯町地域公共交通活性化協議会事務局

現在、七飯町は、地区によって公共交通の利便性に差はあるものの、既往の公共交通(函館バス・JR)がある程度確保されており、一方で自動車依存率が非常に高い町である。近い将来、既存路線バスや鉄道等の廃止による公共交通サービスの低下など、深刻な課題や問題点が明確化されていない現状において、コミュニティバス等の新たな公共交通サービスを導入するには、経済面における負担を十分に考慮し、導入時期や導入規模などを慎重に進める必要がある。

こうした現状において、コミュニティバスを導入し、その導入効果を維持するためには、これまで以上に公共交通利用の促進・増大を確保しなければならないと考えられる。よって、以下に示す4つの地域ニーズが必要と考えられるため、アンケート調査の詳細分析(クロス集計)を行った。

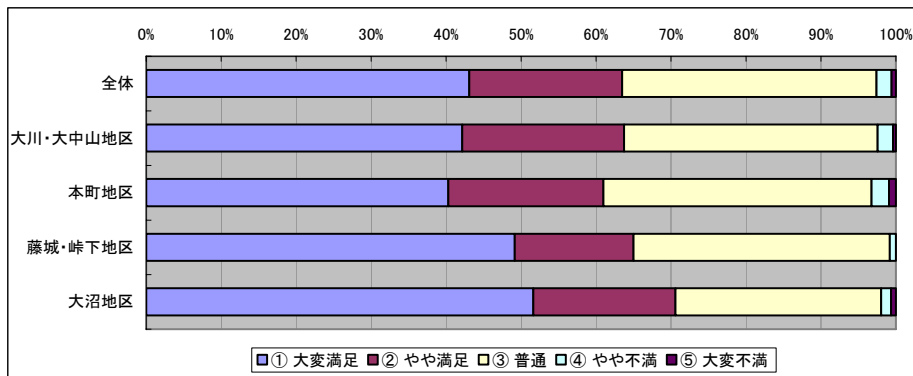
※現在利用している交通手段ごとに分析。

- ①自動車利用者(自ら運転)の公共交通への転換を促進
- ②公共交通利用者の更なる利用促進と満足度の向上
- ③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換を促進
- ④若年層(20代~40代)の意識向上と経済的支援が必要

①自動車利用者(自ら運転)の公共交通への転換を促進

●日常生活で自動車(自ら運転)を利用している(1351人)を対象とした詳細分析

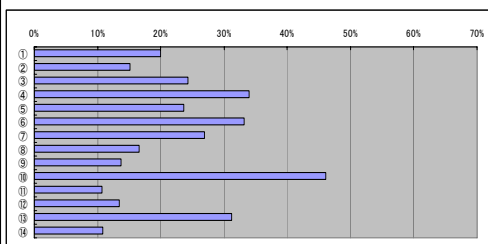
1) 自動車利用者の満足度はどうか?・・・**十分満足している**



①自動車利用者(自ら運転)の公共交通への転換を促進

●日常生活で自動車(自ら運転)を利用している方(1351人)を対象とした詳細分析

2) 公共交通への転換に対する意識はどうか?・・・**転換に対する意識は低い**



- ① 自動車(バイク含む)の運転を経済的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ② 自動車(バイク含む)の運転を体力的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ③ 自分で自由に使える自動車(バイク含む)があれば、自分自身で運転して移動したい。
- ④ 目的によっては公共交通を利用したいと思っている。
- ⑤ 自宅から最寄りの駅やバス停までの距離が遠く、公共交通(JRや函館バス)の利用が不便である。
- ⑥ 現在の公共交通(JRや函館バス)では便数が足りないため不便である。
- ⑦ 現在の公共交通(JRや函館バス)では利用したい時間帯に運行便がないため不便である。
- ⑧ 現在の公共交通(JRや函館バス)では接続がスムーズでないため不便である。
- ⑨ 現在の公共交通(JRや函館バス)では経済的負担が大きく不便である。
- ⑩ タクシーでの移動は、経済的負担が大きく不便である。
- ⑪ タクシーでの移動は、移動距離が短いため、頼みづらいときがある。
- ⑫ 自転車や徒歩での移動は体力的に困難であり、不便である。
- ⑬ 荒天時や冬期間の移動が不便(不安)である。
- ⑭ その他

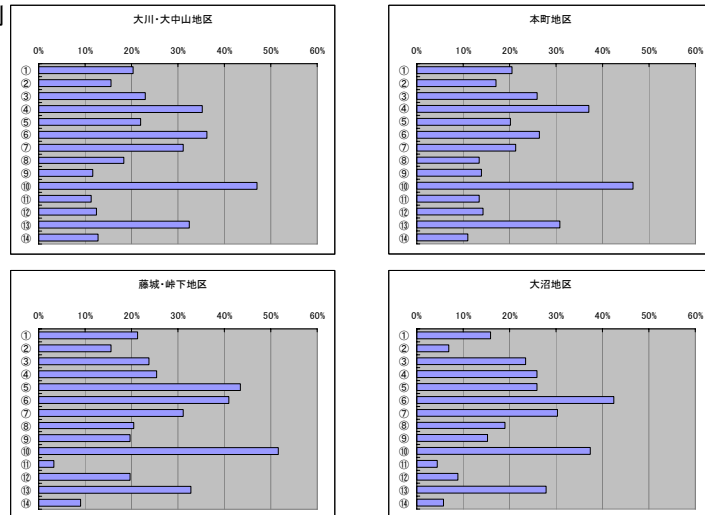
①自動車利用者(自ら運転)の公共交通への転換を促進

●日常生活で自動車(自ら運転)を利用している方(1351人)を対象とした詳細分析

2) 公共交通への転換に対する意識はどうか？

・・・大沼地区は、他の地区より意識が低い

地区別

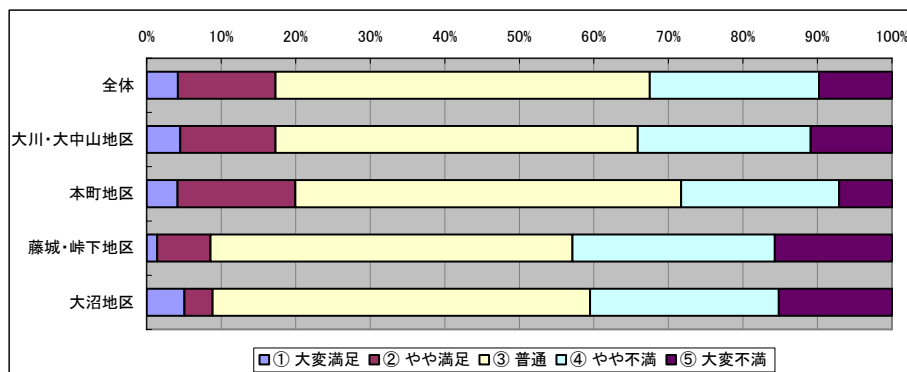


②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

1) 公共交通利用者の満足度はどうか？

・・・満足度はある程度満たされている





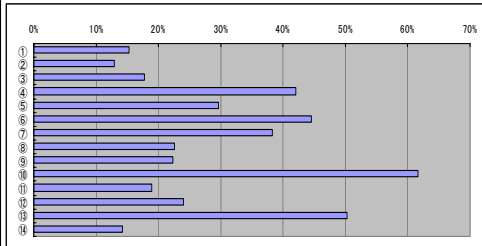
## ②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

### 2) 不満の理由はどこにあるのか?

・・・ **便数不足、時間帯の不一致に対する不満が高い**

全体



- ① 自動車(バイク含む)の運転を経済的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ② 自動車(バイク含む)の運転を体力的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ③ 自分で自由に使える自動車(バイク含む)があれば、自分自身で運転して移動したい。
- ④ 目的によっては公共交通を利用したいと思っている。
- ⑤ 自宅から最寄りの駅やバス停までの距離が遠く、公共交通(JRや函館バス)の利用が不便である。
- ⑥ 現在の公共交通(JRや函館バス)では便数が足りないため不便である。
- ⑦ 現在の公共交通(JRや函館バス)では利用したい時間帯に運行便がないため不便である。
- ⑧ 現在の公共交通(JRや函館バス)では接続がスムーズでないため不便である。
- ⑨ 現在の公共交通(JRや函館バス)では経済的負担が大きいため不便である。
- ⑩ タクシーでの移動は、経済的負担が大きいため不便である。
- ⑪ タクシーでの移動は、移動距離が短いため、頼みづらいときがある。
- ⑫ 自転車や徒歩での移動は体力的に困難であり、不便である。
- ⑬ 荒天時や冬期間の移動が不便(不安)である。
- ⑭ その他

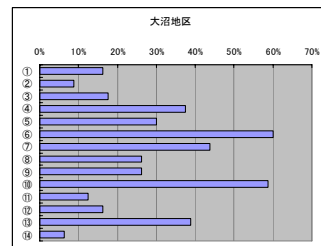
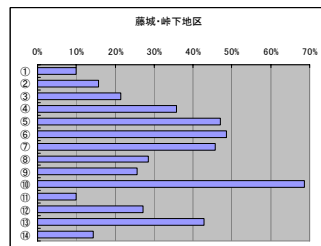
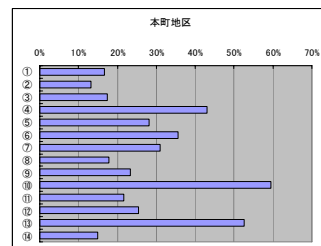
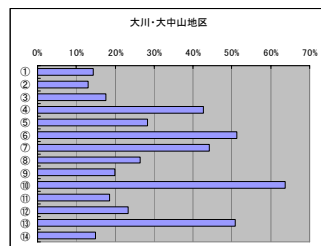
## ②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

### 2) 不満の理由はどこにあるのか?

・・・ **大沼地区は、他の地区より便数不足を強く感じている**

地区別



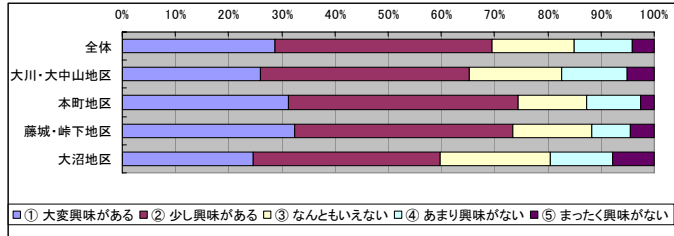
## ②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

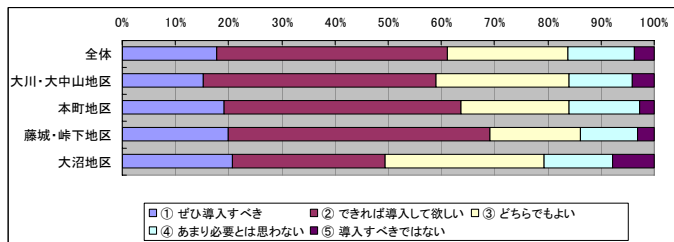
### 3) 導入に対する支持はどうか?

・・・ **7割が興味を示し、6割強は導入に前向き**

#### ●興味と関心について



#### ●導入について

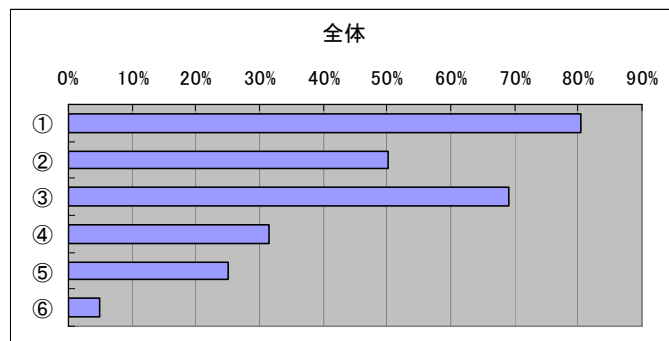


## ②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

### 4) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は?

・・・ **自身が利用したいとする方が8割、地域にとっても必要**



①	自分自身が利用したいから(将来利用したいも含む)
②	現在の公共交通(JRや函館バス)では不便を感じるから
③	地域の将来を考えると必要な交通手段だから
④	必要としている家族がいるから
⑤	自動車運転免許がないから (免許を取得する予定がないも含む)
⑥	その他

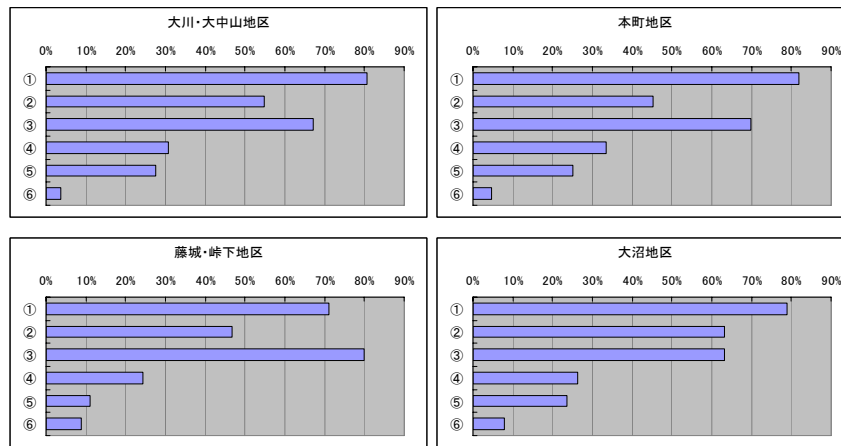
②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

4) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は？

・・・どの地区も支持率が高く、格差は見られない。

地区別

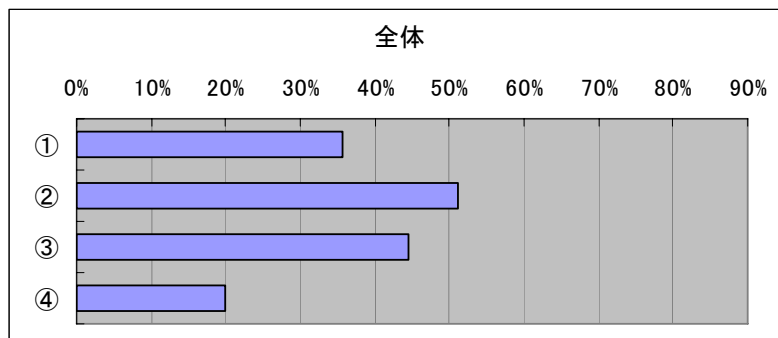


②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

4) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は？

・・・自分自身が利用しないと答え方は低い。



- ① 自分自身が利用しないから  
(将来においても利用するつもりはない)
- ② 現在の公共交通(JRや函館バス)で十分だと思うから
- ③ 地域の将来にとって必要な交通手段だとは思わない
- ④ その他

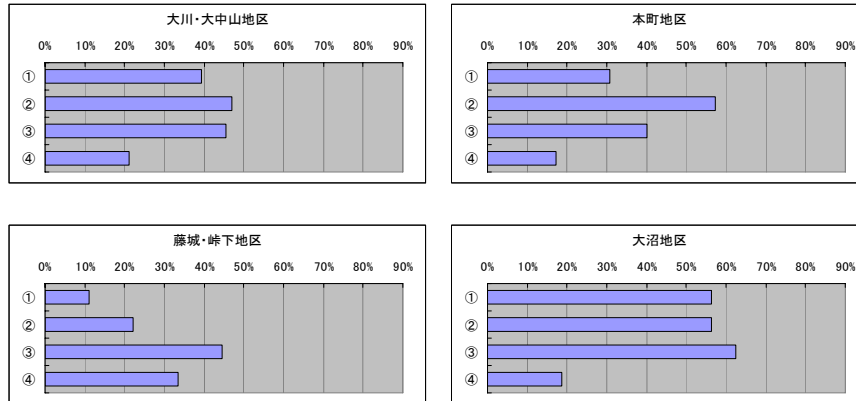
②公共交通利用者の更なる利用促進と満足感の向上

●日常生活で公共交通(函館バス・JR)を利用している(1057人)を対象とした詳細分析

4) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は？

- ・・・大沼地区 **自分自身が利用しないと答え方は高め。**
- 藤城・峠下地区 **自分自身が利用しないと答え方は低い。**

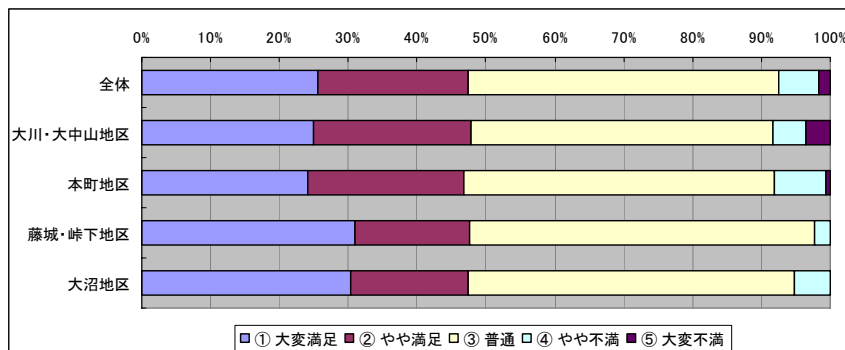
地区別



③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

1) 公共交通利用者の満足度はどうか？・・・**十分満足している**



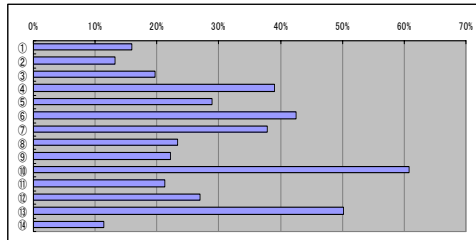
### ③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

#### 2) 公共交通への転換に対する意識はどうか？

・・・目的によっては利用したい方が4割弱

全体



- ① 自動車（バイク含む）の運転を経済的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ② 自動車（バイク含む）の運転を体力的な理由から控えたい、またはやめたいと思っている。
- ③ 自分で自由に使える自動車（バイク含む）があれば、自分自身で運転して移動したい。
- ④ 目的によっては公共交通を利用したいと思っている。
- ⑤ 自宅から最寄りの駅やバス停までの距離が遠く、公共交通（JRや函館バス）の利用が不便である。
- ⑥ 現在の公共交通（JRや函館バス）では便数が足りないため不便である。
- ⑦ 現在の公共交通（JRや函館バス）では利用したい時間帯に運行便がないため不便である。
- ⑧ 現在の公共交通（JRや函館バス）では接続がスムーズでないため不便である。
- ⑨ 現在の公共交通（JRや函館バス）では経済的負担が大きく不便である。
- ⑩ タクシーでの移動は、経済的負担が大きく不便である。
- ⑪ タクシーでの移動は、移動距離が短いため、頼みづらいときがある。
- ⑫ 自転車や徒歩での移動は体力的に困難であり、不便である。
- ⑬ 荒天時や冬期間の移動が不便（不安）である。
- ⑭ その他

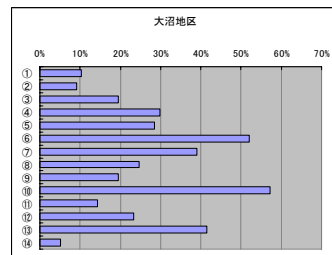
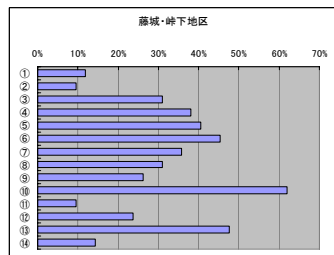
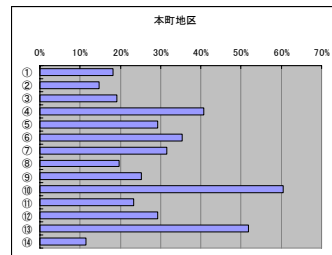
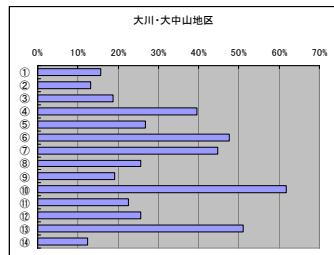
### ③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

#### 2) 公共交通への転換に対する意識はどうか？

・・・大川・大中山地区、本町地区の方が利用ニーズが高い。

地区別



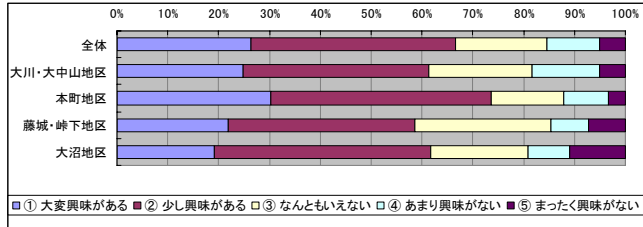
③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

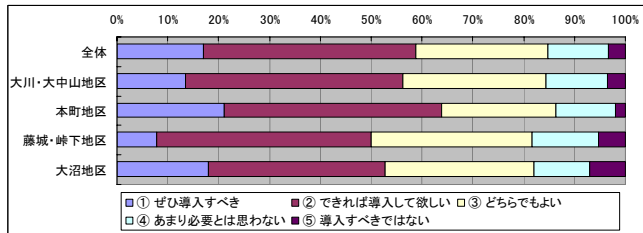
3) 導入に対する支持はどうか?

・・・6.5割が興味を示し、6割弱は導入に前向き

●興味と関心について



●導入について

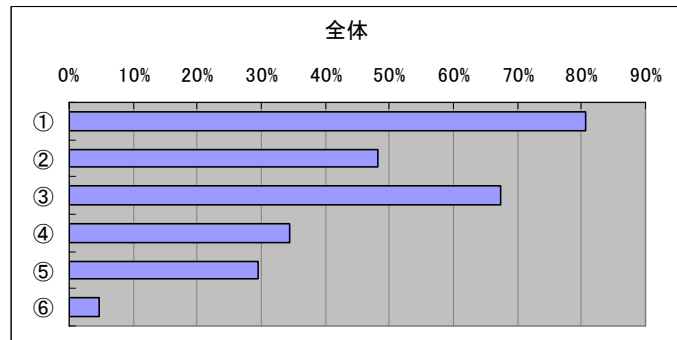


③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

4) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は?

・・・自身が利用したいとする方が8割強、地域にとっても必要



- ① 自分自身が利用したいから(将来利用したいも含む)
- ② 現在の公共交通(JRや函館バス)では不便を感じるから
- ③ 地域の将来を考えると必要な交通手段だから
- ④ 必要としている家族がいるから
- ⑤ 自動車運転免許がないから(免許を取得する予定がないも含む)
- ⑥ その他

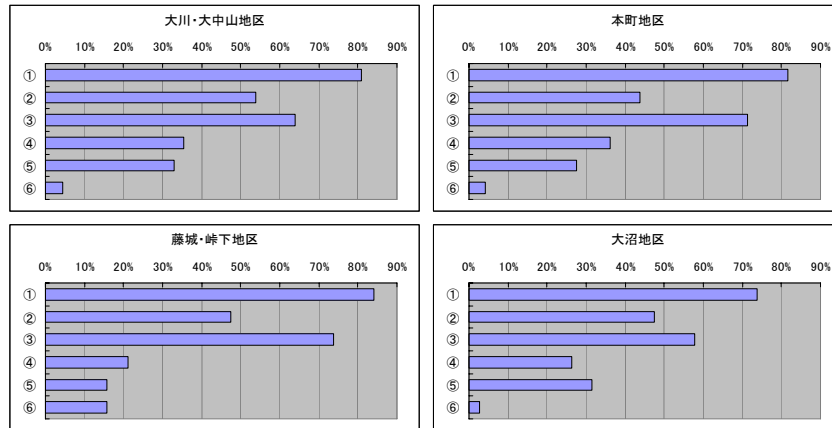
③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

4) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は?

・・・どの地区も支持率が高く、格差は見られない。

地区別

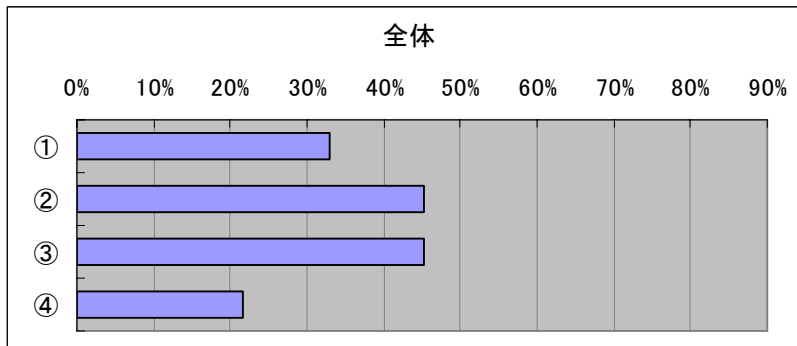


③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

4) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は?

・・・自分自身が利用しないと答え方は低い。



- ① 自分自身が利用しないから (将来においても利用するつもりはない)
- ② 現在の公共交通(JRや函館バス)で十分だと思うから
- ③ 地域の将来にとって必要な交通手段だとは思わない
- ④ その他

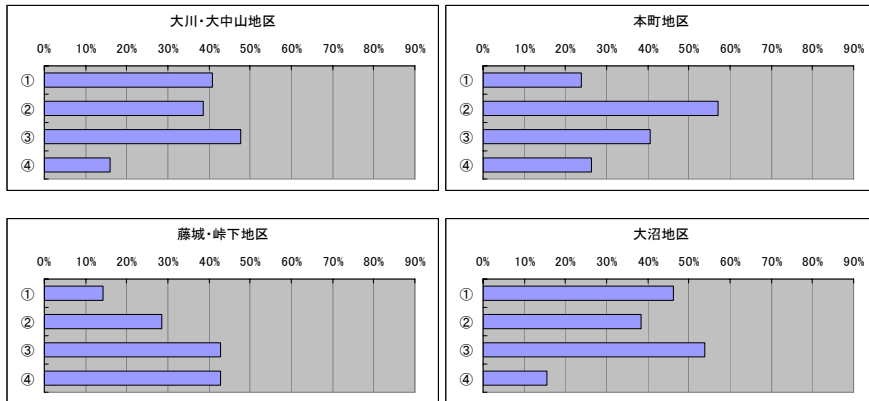
③自動車で送迎を受けている方の公共交通への転換促進

●日常生活で送迎を受けている(721人)を対象とした詳細分析

4) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は？

- ・・・大沼地区 **自分自身が利用しないと答え方は高め。**
- 藤城・峠下地区 **自分自身が利用しないと答え方は低い。**

地区別



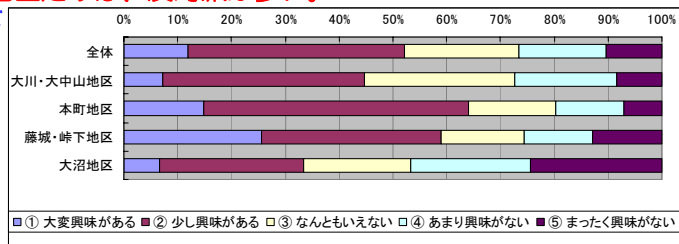
④若年層の理解と支援が必要

●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

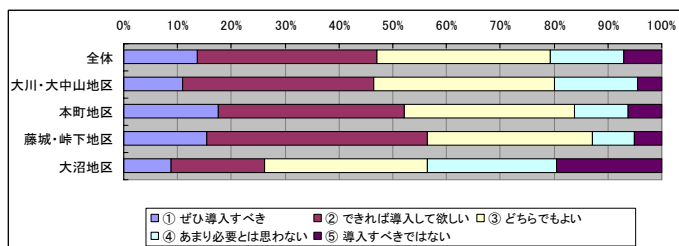
1) 導入に対する支持はどうか？

- ・・・**5割強が興味を示し、賛成する方は5割弱**
- 大沼地区だけは、反対派が多い。**

●興味と関心について



●導入について



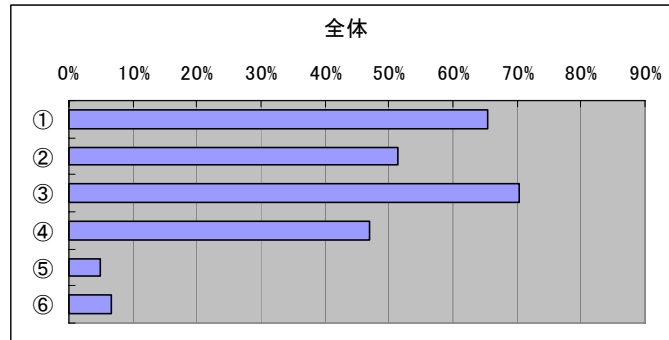


④若年層の理解と支援が必要

●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

2) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は？

・・・自身が利用したいとする方が6.5割、地域にとっても必要



- ① 自分自身が利用したいから(将来利用したいも含む)
- ② 現在の公共交通(JRや函館バス)では不便を感じるから
- ③ 地域の将来を考えると必要な交通手段だから
- ④ 必要としている家族がいるから
- ⑤ 自動車運転免許がないから(免許を取得する予定がないも含む)
- ⑥ その他

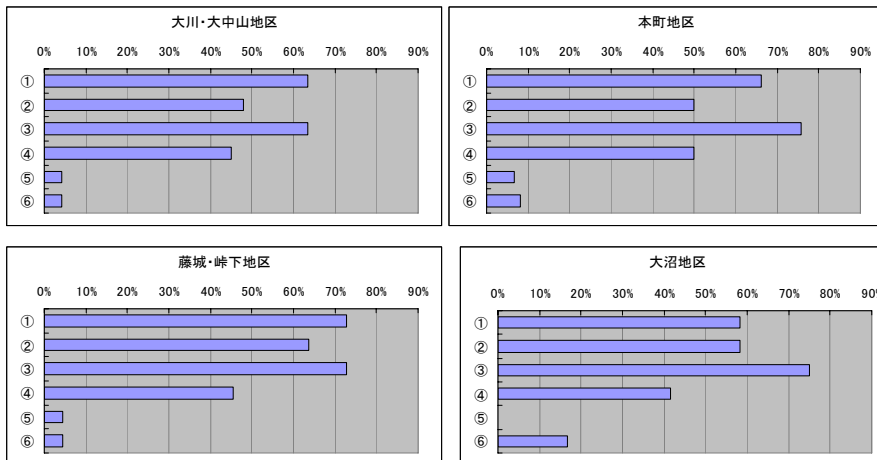
④若年層の理解と支援が必要

●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

2) 支持(ぜひ導入、導入して欲しい方)の理由は？

・・・どの地区も支持率が高く、格差は見られない。

地区別

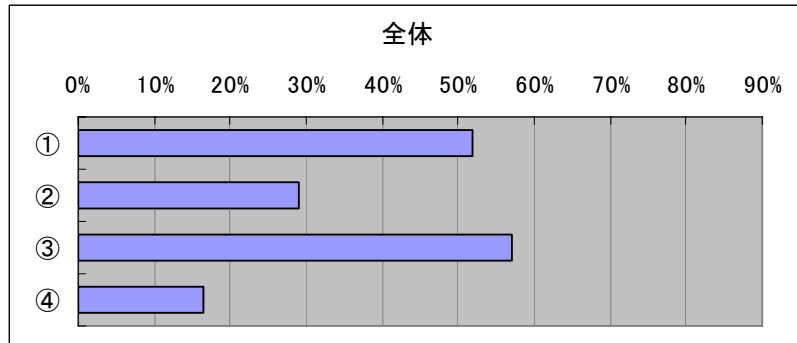


④若年層の理解と支援が必要

●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

3) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は？

・・・自分自身が利用しないと答え方が5割強。



- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| ① | 自分自身が利用しないから<br>(将来においても利用するつもりはない) |
| ② | 現在の公共交通(JRや函館バス)で十分だと思うから           |
| ③ | 地域の将来にとって必要な交通手段だとは思わない             |
| ④ | その他                                 |

④若年層の理解と支援が必要

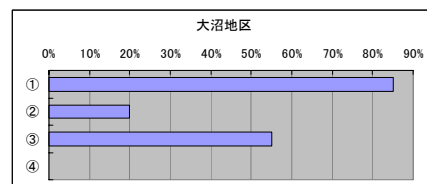
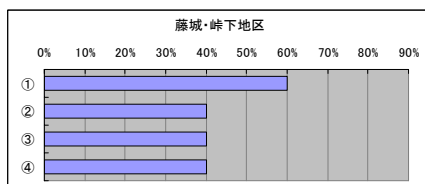
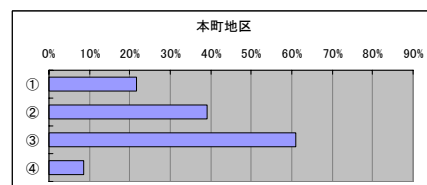
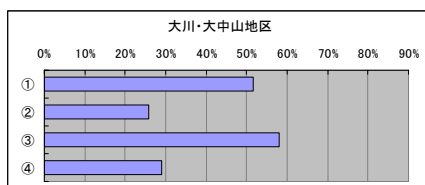
●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

3) 不支持(必要と思わない、導入すべきではない)の理由は？

・・・本町地区 自分自身が利用しないと答え方は低め。

大沼地区 自分自身が利用しないと答え方は高い。

地区別

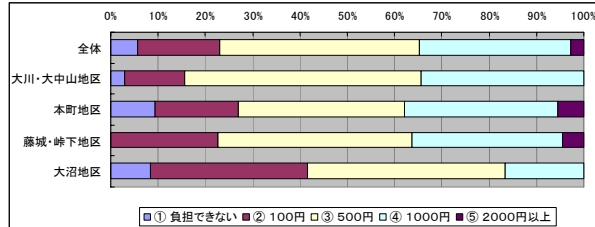


#### ④若年層の理解と支援が必要

●20代、30代、40代の回答者(384人)を対象とした詳細分析

#### 4) 費用負担に対する理解はどうか？

●支持派・・・1,000円までならある程度期待できる



●不支持派・・・負担できない方が7割弱いる。大沼地区は高め

